

桜 蕾

創立
150周年記念誌



150th
Anniversary 2024

五城目町立五城目小学校

桜 蕾



創立 150 周年記念誌

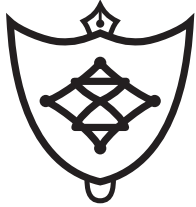
目次

ごあいさつ	03
沿 革	12
記念スクールソング	14
思い出の中の学校	15
記念事業・記念行事	19
みんなの記念写真	24
職員からのメッセージ	37
みんなのメッセージ	38

五城目町立五城目小学校

校歌校章

【校章】



大正11年10月30日学制発布50周年を記念して制定したもので、記念式の日に表示された。

ペンは「文」を、楯は「武」を、8つの点は付近の町村を表し、中央の文字は五城目の意味である。この付近の中心的な学校というほこりが、校章にこめられている。



五城目小学校 PTA 創立三十周年記念碑
昭和54年3月10日
伊藤幸作 書 石川幸雄 刻

【校歌】

作詞：加藤 裕／作曲：渡辺 正

- 1 たえまなく流れきらめく せせらぎは
くめどもつきぬ わが教え
いつもやさしい はぐくみに
みんなが肩を 寄せ合って
ああうるわしの 花かおる
楽しい母校 五城目われら
- 2 ゆるぎなく窓にそびえる 森山は
きたえて強い わがちから
しげる林の 根ぶかくも
生きては広く 枝張って
ああそよ風の 吹くところ
誇りをこめて いそしむわれら
- 3 限りなく澄んで清らな 大空は
みがいてさえる わが心
進む文化の 足おとに
ときめく胸を ひきしめて
ああ白雲の わくかなた
望みは高く 伸びゆくわれら





ごあいさつ

五城目小学校創立一五〇周年記念事業実行委員会

委員長 小玉 武

五城目小学校がここに創立一五〇周年を迎えられましたことを、PTAを代表して心よりお祝い申し上げます。また、先日十一月二十五日に挙行した記念式典において、学校関係者の皆様、地域の皆様、そして児童の皆さんの素晴らしい歌声と共に盛大にお祝いできたことを心から嬉しく感じております。

本校は明治七年に創立された大変歴史のある学校です。その歴史の中で教職員の皆様と保護者、地域の皆さまが手を取り合って、子どもたち一人一人の健全な育成を図る教育の実践に努めてこられたことは、本校の素晴らしい伝統となっております。

このことは現役PTAとして大変力強く感じるところであり、この間の不断の努力と情熱に対して全ての方々に深く敬意を表するところであります。

一五〇年間という長い年月の中で五城目小学校は多くの変遷を経てきました。時代の流れと共に教育の方法や学ぶ内容も変わってきましたが、一貫して変わらないものがあります。それは、子どもたちの成長と学びを支えるという使命です。

五城目小学校で過ごした多くの子どもたちが、それぞれの道で輝かしい未来を築いていることは、私たちの誇りです。今後も五

城目小学校が地域の中心として、子どもたちの夢や希望を育む場所であり続けることを願っております。そのためにはより一層、学校、家庭、地域の三者が連携し、子どもたちが安心して学校生活を送れるように皆が手を取り合っていかなければなりません。

私自身も五城目小学校を巣立った卒業生の一人です。時代を経て校舎は新しくなり、今は我が子が元気に通学している今日、縁あって創立一五〇周年という大きな節目に巡り合うことができました。とても素敵なご縁であると心より感じております。これを機縁として、私たち現役PTAも力を合わせて、地域の皆さまと共に、子どもたちの未来のために努力していきたいと思っております。皆様にはこれからも変わらぬご理解、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、創立一五〇周年にあたり、これまでの全ての関係者の皆様に深い感謝の意を表します。皆様のご支援とご協力があつてこそこの今日があり、子どもたちの変わらぬ元気な笑顔とともに次の十年、百年と我が母校がいつの時代も地域の皆様に愛され、更なる歴史を紡いでいくものと感じております。

皆様への心からの感謝とともに、五城目小学校の今後のさらなる発展を祈念しお祝いの挨拶とさせていただきます。

沿革

2014-2024

平成

- 27年度 大川小学校と統合、町唯一の小学校となる
秋田県金融広報委員会より金銭教育研究校委嘱(27、28年度)
ミニバス男子スポ少全県大会準優勝、東北大会出場
ミニバス女子スポ少全県大会第3位、東北大会出場
- 28年度 耐震基準により、南側校舎未使用化
ミニバス男子スポ少全県大会第3位、東北大会出場
- 29年度 「五城目小学校改築事業」始まる
- 30年度 教育公務員弘済会地域貢献賞を受賞
五城目町PTA連合会と五城目小学校PTA研修部の共催事業として、親子芸術鑑賞教室「アトリオンがやってきた」を開催

令和元年 — 現在

- 元年度 「五城目小学校改築事業」新校舎建設着工
- 2年度 現在地に新校舎建築 新校舎竣工式 新校舎開校式
- 3年度 NHK音楽教室
「こども音楽クラブ～N響が五城目小学校にやってきた～」開催
- 4年度 学校菜園完成
「みんなの学校」(生涯学習課事業)開校
- 5年度 「いのちの教育あったかエリア事業」推進校(文部科学省「道徳教育の抜本的改善充実に係る支援事業」秋田県教育委員会五城目町委員会指定)

創立150周年記念事業・行事

- | | | |
|-------------|-------------|--|
| 令和6年 | 4月 下旬 | 創立150周年テーマ決定(児童会) |
| | 5月 | 創立150周年記念看板設置
創立150周年記念大運動会 |
| | 6月 | スクールソング完成 |
| | 7月 | スクールソング歌詞彫金(P T A親子活動)
ホームカミングディ展示(P T A研修部) |
| | 10月 4日(金) | 創立150周年記念書道パフォーマンス |
| | 9日(水) | 五小150才おめでとう集会(児童会) |
| | 24日(木) | スクールソング歌詞額設置 |
| | 26日(土) | 創立150周年記念学習発表会 |
| | 11月 25日(月) | 創立150周年記念式典(P T A総務部)
創立150周年記念品配付(P T A保健体育部)
創立150周年記念講演 元祖爆笑王 |
| | 令和7年 | 3月 |



五城目小学校創立 一五〇周年を祝して

五城目町長 渡 邊 彦兵衛

創立一五〇周年という記念すべき節目の年を迎えられた五城目小学校、そして関係者の皆様におかれましては心よりお祝い申し上げます。

五城目小学校は、学制発布二年後の明治七年「森嶽^{しんがく}学校」として創立以来、地域に根差し、愛されながら明治、大正、昭和、平成、令和という時代の中で輝かしい歴史と伝統を築き上げ、地域の教育の拠点として、多くの優れた人材を輩出しております。

これもひとえに、今日を築きあげられました歴代の校長先生をはじめ諸先生方の教育に対する熱意と、PTAや地域の皆様方の深いご理解とご協力の賜物であり、これまでのご労苦に、心から敬意と感謝を申し上げます。

五城目小学校は、時代の流れの中で幾多の変遷を経ながら、昭和四十三年の富津内西小学校の統合をはじめ、馬川、富津内、杉沢、内川、馬場目、そして平成二十七年に大川小学校の八校の統合を経て、五城目町唯一の小学校となりました。

町のシンボルである森山のふところに抱かれ、自然豊かな地で、地域からの期待を受け文武両道を実践し、優秀な成績を収め、その名声を高めてこられました。

そして、令和二年十月、ここ上樋口の地に新校舎が完成し、「夢高く、心たくましく 学び合う五小の子」を学校教育目標に掲げ、日々研鑽に努められている先生方、保護者の皆様はじめ地域の皆様が連携し、子どもたちの学びを支え、社会教育施設と一体となった先進的な教育環境のもと、子どもたちが心身ともに健やかに成長されているものと存じます。

今後とも、先人が築いてこられた伝統や校風、統合された学校の伝統も引き継ぎながら、「越える学校」の実現に向けて、学校・保護者・地域が一体となって、新たな学校づくりを推進していただきますようお願い申し上げます。

児童の皆さんには、地域の皆様とのつながりを大事にしながら勉強やスポーツに積極的に取り組み、五城目小学校で学び、そして一五〇周年の記念すべき年に立ち会えたことを誇りに、将来大きく飛躍することを期待しております。

町としましても、次代を担う子どもたちが豊かな人間性を身に付けていけるよう、教育環境の整備に取り組んでまいります。

結びに、創立一五〇周年を迎えるにあたり、各記念行事等の準備や開催にご尽力を賜りました、実行委員会、並びに校長先生をはじめ関係者の皆様方に心よりお礼申し上げますとともに、五城目小学校の今後ますますのご発展と皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。



創立一五〇周年に寄せて

五城目町教育長

畑澤 政信

五城目小学校創立一五〇周年と創立一五〇周年記念誌の発行を心からお祝い申し上げますとともに、今年の一年間、記念事業推進にご尽力された実行委員会の皆様、記念誌の編集にあたられた皆様に深く感謝申し上げます。

明治七年五月七日「森嶽学校」として開校以来、明治、大正、昭和、平成、令和と激動する時代の中で、学校移転、学校統合など幾多の困難を乗り越え、一五〇年の輝かしい歴史を刻んできました。これもひとえに、地域とともにある学校として着実に歩みを進めて来られました歴代の校長先生をはじめ教職員のご努力と学校をささえてくださった地域の皆様に、教育委員会を代表し心から敬意と感謝を申し上げます。

私自身、五城目小学校に教諭、教頭、校長として三回にわたって十三年間勤務し、そして創立一五〇周年という大きな節目の年に教育長として巡り会えたことに感慨深いものがあり、不思議な縁を感じております。

時代の変化と社会の要請に応じて幾度なく教育改革が行われるなか、五城目小学校は歴史と伝統を引き継ぎ、地域の方々の教育に対する熱意と期待のもとに学校経営の充実に努め、文武両道にわたって優れた多くの人材を輩出し、現在も多くの卒業生が多方面で活躍していることは喜ばしいことであります。

五城目小学校一五〇年の歴史の中で、校舎の移転を余儀なくされてきました。令和二年十月には「あさひ台」から雀館運動公園の一角に新校舎が完成しました。学校建築に向けて開催したスクールトークや建築のコンセプトである「越える学校」の取組が、先進的な事例として全国から注目され、多くの方々が見学に訪れております。町民との対話を重ね社会教育施設と一体となり、子供たちの学びと成長を支えることができる最適な地と定めたときのこと、いま改めて思い出されます。

現在、予想を超える速さで進む少子高齢化、グローバル化や情報化の進展など、時代は速いスピードで変化するなか、地域社会における学校の役割は大きくなっております。「教育は地域社会を動かしていくエンジンの役割を担っている」、「地域の未来を担う子供たちの成長は、その地域に住む人々の希望である」といわれております。このことを肝に銘じて、地域との連携を一層強化し、五城目らしさを生かした五小ブランドの創造を期待しております。最先端の恵まれた学習空間を活用し、「チーム五小」として子供たちの豊かな学びと成長を支える新たな時代にふさわしい教育活動を展開するとともに、「みんなの学校」と連携し、子供も大人も共に育つ教育体制を充実させるなど、「越える学校」の実現に向けさらなる挑戦と前進を願っております。

「新たな五小、今ひらく時」。町唯一の小学校となつたいま、地域との絆を一層深め、地域に愛され、卒業生の心の拠所として、未来に向かって新たな歴史を重ね、発展することを祈念申し上げます。



一五〇年は大樹

五城目町議会
議長 石川 交三

五城目小学校が創立一五〇周年を迎えられましたことに、これまで五城目小学校に関わりのありました皆様とともに、一五〇周年を寿ぎ、議会を代表し、お祝いを申し述べさせていただきます。

この一五〇周年という長い歴史と伝統は、大いなる熱意と愛情をもって指導してこられた現・五十一代になります島崎徳之校長先生に至る歴代の校長先生、教職員、関係者の皆様、保護者・地域の皆様、そして学校教育目標に掲げられております「夢高く心たくましく 学び合う五小の子」たちの、たゆまぬ精進の積み重ねによって築かれた賜物であると思えます。

明治五年に学制改革があり、数年のうちに全国で小学校が誕生いたしました。新しい社会に適した学制に改編することを目的として、時の東京帝国大学総長らによって、教育制度が改革されたもので、それが現在の六・三・三・四制であります。特に小学校教育は重視されました。学制改革は、日本の教育史における重要な転換点であり、近代的教育システムの基礎を築いたものであつて、全国的な教育の均一性と普及を実現したものであります。

これまでに町内の多くの小学校と五城目小学校が統合されてきました。各地域の素晴らしさを継承し、未来を担う子供たちの教

育環境の充実を更に進めることは論を俟ちません。

歌を一首紹介します。「歩道にて子らの挙げたる右の手を朝日が包む信じていいよ」。登校風景です。元気な子供たちを朝日が包んでいます。豊かな未来があることを子供たちに信じてほしいと作者は願っています。私たち大人の責任は重大であります。

わがふるさと五城目町も今、その姿を変えようとしています。拡大成長から縮小社会へと時代は大きく変遷しています。そうした中で五城目小学校校舎は凜と建っています。子供たちが、その瞳を輝かせ、生き生きと学校生活を送る、その姿を見ることは私たちの大きな喜びであり、希望であります。素晴らしいこの校舎は、子供たちにとって、その生涯に亘って「心の原風景」となるものと確信しております。一五〇年の大樹から巨木への成長を願うものです。

「集まり散じて人は変われど、目指すは同じき理想の光」であります。

五城目小学校の未来に向けての益々のご発展と、関係者皆様のご隆盛を祈念し、御祝いいたします。



地域の皆様に支えられて

五城目町立五城目小学校

校長 島崎 徳之

一〇〇周年記念誌「五小一世紀」に次のような記載があります。「町内の学校で、最も早く発足したのは森嶽学校である。明治七年五月七日の森嶽学校の創立をもって、五城目小学校の誕生の日としている。」（森嶽は）森山という意味で、森山は五城目のシンボルであり、郷土の人々が愛着を込めて朝な夕な山容を眺めたものであろう。」地域の皆様が新しくできた学校に対して、町のシンボルと同じように愛着をもっていただくことが伝わります。

明治八年以降、薫陶学校、湯ノ又学校、環山学校、登美多学校、鶴湯学校、高崎学校、大川学校、中村学校が作られ、昭和二十二年に、五城目小学校、富津内西小学校、富津内東小学校、馬川小学校、内川小学校、馬場目小学校、杉沢小学校、大川小学校の八校となりました。以降、幾度の統合を経て五城目小学校は、五城目町全域から子どもたちが通い、全町民の期待を背負う小学校となったのです。

この一五〇年間変わらないもの、それは学校と地域とのつながり、保護者や地域の皆様のご支援・ご協力です。平成二十一年には学校支援地域本部事業を開始しました。新校舎改築事業は平成二十九年から始まり、「スクールトーク」の記録には「町民との出会いが起こる空間」「一生通える小学校」などたくさん

の願いが記されています。それらを受けて、「校舎や地域の境界を越える」「年齢の境界を越える」学校を目指し、「越える学校」という建築コンセプトのもと、令和二年に現校舎が完成しました。令和四年には、越える学校を具現する取組の一つとして「みんなの学校」事業を開始しました。授業に地域の方が参加できる講座もあり、子どもたちの学びの充実につながっております。このように地域と学校とのつながりは、この一五〇年間変わらない本校の宝物なのです。

この一年間、「Key 新たな五小、今ひらく時」のテーマのもと、五小っ子は記念運動会や学習発表会などでも、きらめく笑顔とやさしさで、立派に役割を果たしました。また、自主的に「五小一五〇才おめでとう集会」を企画して学校の一五〇才を祝いました。これまでの百四十九年の先輩方、八つの小学校の歴史を引き継ぎ、百五十年目の学校の歴史を、新たな五小を見事に開きました。地域の方々に支えていただいていることに感謝の気持ちをもち、今後も新たな五城目小学校の歴史を開いていってほしいと願っています。

本校は、これからも、学校と地域の垣根を越える学校として、学校と地域をつなぐ、学校を地域にひらく取組を大切に、夢や未来、学校の新たな歴史をつくる子どもたちを育むため、教職員一同心を込めて全力で教育活動に当たってまいります。

今後とも引き続き、「地域とともにある学校」として、末永くご支援くださいますようお願い申し上げます。



創立一五〇周年に寄せて

五城目町立五城目小学校
第四十八代校長 戸部 裕 隆

創立一五〇周年を心からお祝い申し上げます。平成二十一年度から教頭として二年間、平成二十六年度からは校長として四年間、羽黒前にある「あさひ台」の校舎で過ごしました。偉大なる森山の懷に抱かれ、春夏秋冬の豊かな自然環境の中で五感を存分に働かせながら遊んだり絵を描いたり、夢中になって本を読んだり、人懐っこく話しかけてきたりする屈託のない五小っ子たち。学級や学年の枠を越えて協力し合い、結果を恐れずに明るく元気に挑戦し、粘り強くやり抜く姿は、しつかりと私の胸に刻まれています。

創立一四一周年目を迎えた平成二十七年四月、大川小からの児童も加わり、町唯一の小学校となりました。それを機に学校教育目標を「夢高く 心たくましく 学び合う五小の子」へと一段高く掲げ、新たな五小教育を構築していくことにしました。歴史と伝統を誇る本校だけに勇気のいる決断でしたが、各種調査で見童の学びに向かう姿勢や学習状況が良好な結果を示したこと、校舎改築の動きとも相まって五小教育へ期待する町民の声が高まっていたことなどから、この節目がもつとも相応しい機会と考えたのです。

経験豊富なベテラン教員にチャレンジ精神旺盛な若手教員が複数加わったこともあり、現在の学習指導要領への移行を見据えた授業改善や模擬授業などの研修が活発に行われました。目標実現のため、教職員に掲げた「空気のおいしい職員室」「チーム五小」

もそれほど時間を要せず浸透し、職場風土となったように思います。五小っ子たちの学びに向かう姿や学習状況は、その後も良好に推移したほか、文化・スポーツ面での活躍も数多く、感慨も一入でした。

地域との協働によるキャリア教育等の実践にも力を注ぎ、様々なメディアに取り上げられました。多種・多様な国々のA I U留学生在が本校を訪れ交流していく中で、自らの町のよさについて気付き、外部に発信していく六年生の総合「広い世界へ」五城目で世界一周」の学習をはじめ、町の願いであった伝統芸能「番楽」の保存・継承（担い手育成）も受けて再構築した三年生の総合学習、町の「わらしべ塾」と協働しボランティア主体の運営へと移行した「五小っこ学習会」等々、どの学年でも枚挙にいとまがないほどでした。町内外の様々な主体との協働・連携によって学びのフィールドが広がり、子どもたちの輝き、伸びゆく可能性が格段に高まっていくのを肌で感じました。

本校は今、「越える学校」「みんなの学校」として全国から注目されています。昨年の式典で披露された全校児童による記念のスクールソング「すすめ！未来へ」の歌声は、まさにそうした願いも折り重なって表現されていたように思います。二十二世紀へと着実に足を踏み入れ生きていく五小っ子たちの明るい未来を願うとともに、現教職員の皆様が心身共に健康で、働くことや町民とかわかることに魅力を感じられる職場環境であり続けてほしいと心から願っております。また、町民にとって「立ち寄りたくなる、立ち寄せたくなる学校」として、更に進化・発展していくことをご祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

五城目町立五城目小学校
第四十九代校長 松 野 紳 一

五城目小学校創立一五〇周年を心よりお祝い申し上げます。私が在職したのは、平成から令和への橋渡しの時期の二年間でした。校舎はあさひ台の前校舎であり、学校裏山の杉林の上に広がる青空と、町のシンボル森山を背景に聳える校舎の堂々たる勇姿は深く心に刻まれています。雨の日も風の日も、照る夏の日も凍てつく冬の日も、元気なあいさつの声と共に校庭に続く階段を元気に上って登校してくる子供たちの姿は、五城目小学校の誇りであり、町の将来を担う頼もしい姿として私の目に映っております。

築五十年を経た校舎は、さすがに各所に痛みが現れており、外壁が剥がれ落ちたり、水道管の破損で廊下が水浸しになったりしたと、給食設備の突然の故障で、職員総出でその日の給食の代替とするおにぎりを買い集めに走ったことなどもありました。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言により、卒業式の挙行が危ぶまれたことなども今となっては思い出です。しかし自分の教職生活最後の二年間を、五城目の子供たちや地域、保護者の皆様、教職員「チーム五小」と共に過ごすことができたことは今に繋がる私の宝物です。

町の未来を担うかけがえのない宝でもある子供たちの学び舎五城目小学校が、これからも地域の方々や保護者の皆様方に支えられながら、新たな半世紀への歩みを「たえまなく」「ゆるぎなく」「限りなく」踏み出していかれることを心より祈念し応援いたします。



未来を支える人材育成を

五城目町立五城目小学校
第五十代校長 小 玉 史 男

この度、五城目小学校が創立一五〇周年という歴史的な節目を迎えられたこと、心よりお祝いを申し上げます。また、これまで長きにわたり五城目小学校と子どもたちを見守り、支え続けてくださいました多くの方々のご努力に対しまして改めて感謝申し上げます。

私は、昭和四十三年四月、完成したばかりで屋上に大きな校章が輝く五城目小学校に入学、卒業しました。平成十四年からは教諭として九年間、研究主任や教務主任、野球スポーツ少年団の指導にあたり多くの方々から支えていただきました。令和二年四月からは校長としてあさひ台校舎から雀館新校舎への移転と新たな「五小ブランドの創造」に携わることができ、言葉にはできない程の運命的な力を感じています。

新校舎は、地域の方々とのスクールトークを通して、「越える学校」をコンセプトに誕生しました。地域の方々にとっても「おらほの学校」「おらほの子どもたち」であり、数多くのボランティアの方々に見守っていただいています。これからは、子どもたちが幸せや生きがいを感じられる学びを保護者や地域の方々とともに作っていくことが求められています。地域とともにある学校づくりを進めながら、子どもたちのウェルビーイングを高め、五十年後、百年後の未来を支える人材を育んで欲しいと願っています。



あいさつ

創立一五〇周年記念事業準備委員会

委員長 大塚 正子

創立一五〇周年を迎えられること、心よりお慶び申し上げます。創立以来、一貫して四季折々の素晴らしい環境の中で五城目小学校の子どもたちに充実した時間・質の高い教育を提供し続けてこられたのも、ひとえに歴代の校長先生をはじめ教職員、保護者、地域の皆様が子どもたちの健やかな成長を見守り学校を盛り立てくださったからこそと深く敬意を表すとともに感謝の気持ちでいっぱいです。

「一家は習慣の学校なり。父母は習慣の教師なり。」

この言葉は旧一万円札のモデル福沢諭吉の言葉です。意味は習慣になった事柄は強く意識したり努力したりせず行動化することができる。習慣は幼児期に形成されるものが多い。したがって家庭は習慣を身につけさせる学校であり両親はそこにおける教師ということです。教育は学校の現場だけではありません。学校・家庭・地域が一つになることで本来の意味での教育を子どもたちに与えることができます。これからもともに子どもたちを育てていきます。そして、人が幸せになれるよう現在から未来へ、一人から一人へバトンを渡すリレーのように次の人の為に、目の前の人の為に尽くして頑張れる人に子どもたちと共に成長して参りたいものです。

どうか創立二〇〇年を現在の在校生のみなさんが祝賀でき、素晴らしい時代、素晴らしい未来を創ってくれると確信し、お祝いの言葉とさせていただきます。



森嶽学校
(1874年、明治7年)


五十目小学校
(1882年、明治15年)

五十目尋常小学校
(1891年、明治24年)

五城目尋常小学校
(1896年、明治29年)

五城目国民学校
(1941年、昭和16年)

五城目小学校
(1947年、昭和22年)



高崎学校
(1876年、明治9年)

五十目小学校高崎分校
(1883年、明治16年)

馬川尋常小学校
(1908年、明治41年)

馬川国民学校
(1942年、昭和17年)

馬川小学校
(1947年、昭和22年)


町村薫陶学校
(1875年、明治8年)

馬場目小学校
(1885年、明治18年)

馬場目尋常小学校
(1908年、明治41年)

馬場目国民学校
(1941年、昭和16年)

馬場目小学校
(1947年、昭和22年)




中村学校
(1877年、明治10年)

馬場目小学校分教室
(1885年、明治18年)

杉沢尋常小学校
(1892年、明治25年)

杉沢国民学校
(1941年、昭和16年)

杉沢小学校
(1947年、昭和22年)




七倉にあった頃の五城目小学校校舎



馬川小学校校歌
作詞 館岡恒太郎
作曲 佐々木 章

一、日の出の山の馬場岳よ
大きな姿くどつしきと
強く正しくわたくしと
生きたる力のわたくしと
ほくらわたり
馬川小学校

二、清里の生木を馬場目川
はくばる力にすくんで
ほくらわたり
馬川小学校

三、鈴虫の山森山よ
静かにのりて守歌と
大きな静かにのりて
ほくらわたり
馬川小学校

四、校の館よ 雀の巣
春の芽生えの運動会
みんなの仲よく手をつなぎ
平和の国を築くところ
ほくらわたり
馬川小学校



杉沢小学校校歌
作詞 館岡恒太郎
作曲 佐々木 章

一、馬場岳の山ふところにそびえたつ
学びの舎はわが母校
杉の芽立ちのすくすくと
のびる心と 十こやかに
大空高くのびてゆく
杉沢小学校

二、馬場目川 ささやきは
谷間谷間の生まれどこ
あゆまずやまめ生れどこ
よどむことなく湧りなく
里の木草を生み育て
海原さして流れゆく
杉沢小学校

三、山ののりてわたくしと
共に学ぶわたくしと
明日を誓って呼びかえす
山のごたまは呼びかえす
杉沢小学校

北ノ又分校
(1951年、昭和26年)

川村 合併 → 新五城目町誕生 (1955年、昭和30年)



羽黒前(あさひ台)にあった頃の五城目小学校校舎(1968~2020年、昭和43~令和2年)



(1971年、昭和46年)

馬場目小学校校歌
作詞 小松 耕輔
作曲 加藤 耕輔

一、若鮎とる清らかな川が
映した崖の眺めを継いで
村をひとつに結んで
涙めども尽きぬ友情こめて
今日も楽しく学ぼうよ
みんな手を組む丘の上
ああ馬場目 わが小学校

二、青葉にそよ清らかな風が
遠なる山の壺がな香を
築いたころ送つてる
正しく強く鍛えてのびて
祖先の道に続こうよ
みんな手を組む丘の上
ああ馬場目 わが小学校


三、白雲浮かぶ清らかな空が
果てなく広い文化の花の
開けゆく世を教える
やさしく招く導きうけて
明日の希望を語ろうよ
みんな手を組む丘の上
ああ馬場目 わが小学校

(2006年、平成18年)

校舎位置図

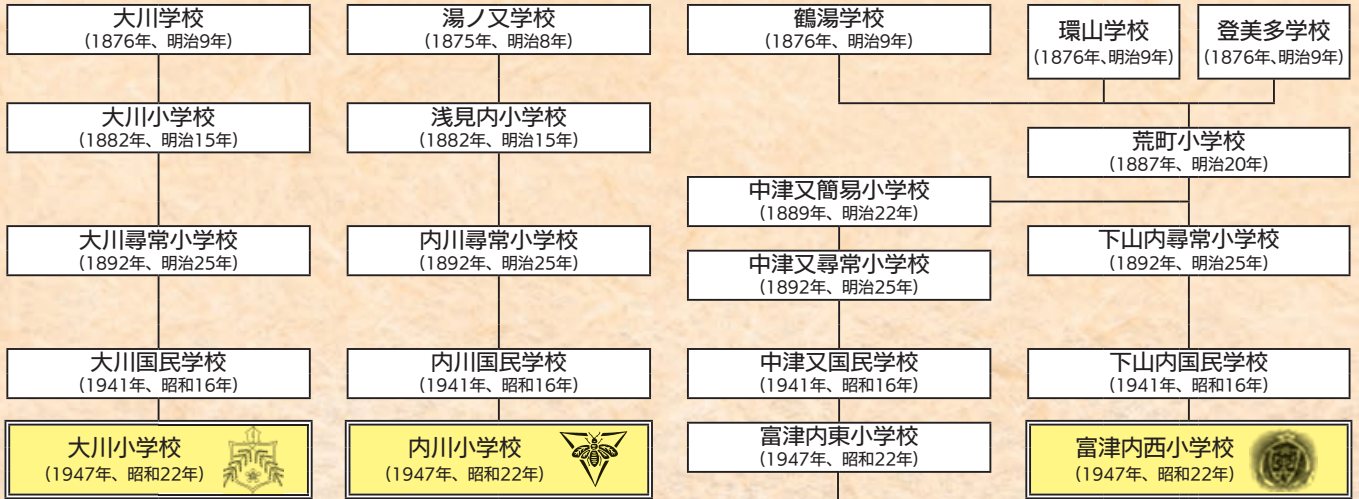


五城目小学校
新校舎に移転
(2021年、令和3年)




現在の五城目小学校校舎
(2021年、令和3年1月14日 新校舎開校式)

五城目小学校と、統合された学校の紹介



内川小学校校歌
 作詞 山田 三千之
 作曲 富永 三郎

一、湯越山の 山ふもと
 なごむ湯けむり 朝ゆうべ
 わたしらばくらの
 のぞみなら
 青い大空 白い雲
 手をとりあって まなぶ窓
 二、林のつづく 幸の歌
 こたまほほえむ いろどりよ
 わたしらばくらの
 ゆくてなら 幸の歌
 茂る峰々 太る幹
 肩くみ交わし まなぶ庭
 内川きよら さざめいて
 光る真玉の 汗を呼ぶ
 わたしらばくらの
 さけびなら
 三、さける里々 みどり風
 声たからかに まなぶ道

富津内西小学校校歌
 作詞 竹内瑛二郎
 作曲 大山会三郎

一、まわりの山々 緑の森に
 朝風きよく 流れるとほろ
 郷土のほこり うけついで
 伸びゆくすきの 命のよりに
 心ひろびろ なかよく育つ
 富津内西の われらの力

二、城あと館山 歴史をうつつし
 富津内川の 水澄むほとり
 日本の栄えを この肩に
 雨の日風の日 たゆまずはげみ
 ひとみあかるく 元気に学ぶ
 富津内西の われらのすがた

五城目町・馬場目村・富津内村・内川村・大

大川小学校校歌
 作詞 加藤 敏裕
 作曲 佐藤 敏雄

一、大川の
 流れてやまぬ 禁に
 ひたすら励む 姿見て
 おの力を信じつづ
 大成の芽を 伸ばそうよ

二、大川の
 うるおす田圃 広々と
 豊かな恵み 身に受けて
 世々の功の あとを継ぎ
 郷土に花を 開こうよ

三、大川の
 澄む青空を 飛ぶ雲に
 心ぞしみ 寄り合つて
 雪に風に 激えぬき
 誇りある実を 結ばうよ

富津内小学校
 (1970年、昭和45年)



(2003年、平成15年)

富津内小学校校歌
 作詞 小玉康一郎
 作曲 大山会三郎

一、続く山波 めぐらす里は
 遠いみおやの 拓けるところ
 受け継ぐ我等 手をとりあつて
 平和な文化 いざ築こうよ
 我等が学舎 富津内小学校

二、薬師小風 富津内川に
 天地の幸の 行手を深く
 希望と夢の いざ進もうよ
 我等が学舎 富津内小学校

三、美林 野は 祖先のいきお
 誇りを高く 瞳をあけて
 集い学ばん 皆睦ましくよ
 立派な町を いざ創ろうよ
 我等が学舎 富津内小学校

(2010年、平成22年)



五城目小学校校舎跡地石碑
 (あさひ台運動広場)

(2015年、平成27年)

【出典】

- 小学校3・4年生社会科副読本「わたしたちの五城目町(改訂第11版)」
- 『五城目町のほこり すばらしい先輩たち 二』(小野一二著)
- 五城目町立杉沢小学校閉校記念誌「清流」
- 五城目町立富津内小学校閉校記念誌「三角山」
- 五城目町立馬場目小学校閉校記念誌「川大地 夢」
- 五城目町立内川小学校閉校記念誌「湯越山」
- 五城目町立大川小学校閉校記念誌「時計台」
- 小玉正文編纂「学舎の校歌(まなびのうた)」
- 令和6年度「学校経営計画書」五城目町立五城目小学校
- 八柳創太(加筆)
- 島崎徳之(馬川小・富津内西小学校元校舎写真撮影)
- 遠藤靖(五城目小学校現校舎・校舎跡地石碑写真撮影)・制作

五城目小学校校歌
 作詞 渡加藤 正裕
 作曲 渡加藤 正裕

一、たえまなく
 流れきらめく せせらぎは
 くめどもつつきぬ わが歌え
 いづもやさしい はぐくみに
 みんなが肩を 寄せ合つて
 ああうるわの 花がおる
 楽しい母校 五城目われら

二、ゆるぎなく
 窓にそびえる 森山は
 きたえて強い わがちから
 しげる林の 根ふかくも
 生きては広く 枝張つて
 ああそよ風の 吹くところ
 誇りをこめて いそいそわれら

三、限りなく
 澄んで清らな 大空は
 みがいてさえる わが心
 進む文化の 足おとに
 とさめく胸を わくわくして
 ああ白雲の わくわく
 望みは高く 伸びゆくわれら

すすめ！未来へ

作詞 今村和佳奈・五小のみんな
作曲 今村和佳奈 編曲 中尾浩樹

1 おはよう！ あさひが のぼる
ランドセルに ワクワクつめて
スキップしながら通る 田んぼみち
春には 花々がうたい
冬には 一面 銀世界
青い空と お城も 見守っている
ゆたかな この町で育った
ぼくらは きっと強い
森山せおって 馬場目川こえて
今日も行こう 五城目小学校へ
手と手 取り合い
すすめ！ 元気よく
キラキラ 明るい未来へ

2 150年も むかしの
小学生たちも
緑しげる森山 ながめたかな？
たくさん 勉強をして
おいしい 給食たべて
泣いたり笑ったり していたかな？
過去から 流れゆく未来へ
ぼくらは 歴史をつなぐ
森山せおって 馬場目川こえて
明日も行こう みんなの学校へ
瞳にうつる ぼくらの未来は
夢と希望で 輝いている
ありがとう
五城目（みんな）だいすきだよ

すすめ！未来へ

弾かしく
♩ = 110 ~ 120

おはよ
う！ あさひが のぼる ランドセルに ワクワク つめて ス
キップしながら とおる 田んぼみち ぼるに
は はなばなが うたい 春には は いらぬんぎんせかい あ
お いそらおし らも みまも てる ゆたか
な この まちでそ だっ た ぼくら
もりやせおって ぼほめ がお こえて あすも
いこうこ じょうめしょうがっ こう
いこうみ みんなの ぼっ こ う

てきてとらあ い すすめ！ げん きよく キラキラ
ひよみにうつる ぼくら のみらいは ぼめとき
うあか る いみらい へ
ぼうで がが 輝いてい る
うたかご
じゅう ねんもむ かのし の じょう ぶくせいの たちも み
どりしげるもりやま ながめたかな たくさ
ん べんぎょう をして おいしい 給食したくたべて な
い たりおら たり していたかな かのこ
あ りが とう (みんな) だいすきだよ

創立150周年記念事業としてスクールソングを企画しました。作詞作曲したのは、本校卒業生で町内でピアノ教室を営む今村和佳奈氏です。子どもたちからも歌詞にしたい言葉を募りました。学校生活の楽しさや五城目町の美しい風景などを盛り込んでいます。